



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

J R東日本労働組合
発責 教育・広報部
2021年1月25日 No.276

シリーズ2021春闘③

★コロナ禍における労働環境の点検行動と改善する取り組み

昨年11月以降、新型コロナウイルスの感染拡大が全国的に広がり「第三波」といわれる状況下にあります。政府は11都府県に「緊急事態宣言」を再発令し、そのほかの地方自治体でも「宣言地域との往来自粛」など独自の自粛要請が行われていますが、感染力が強いとされる「変異種」の市中感染拡大も危惧されるなど、いまだ収束する見通しは立っていません。

また、欧米を中心にワクチン接種が始まっていますが、日本政府は「薬事承認されたワクチンのない現段階において具体的な供給スケジュールを示すことは困難だ」との考えを示すなど、特効薬の開発とあわせて長期的なウイルスとの戦いになることを考えなくてはなりません。



会社の感染防止対策は万全といえますか？

これまで東日本ユニオンは3度にわたる団体交渉を通じ、経営側に様々な新型コロナウイルス感染防止および感染拡大防止対策を求めて議論してきました。あわせて各地方においてもグループ会社を含めた職場実態に踏まえた対策の改善などを支社に求めてきました。

経営側はマスクの配布や除菌用アルコールの配備、飛沫防止用のパーテーション設置など、感染拡大予防に必要な備品の拡充などを進めていますが、時々的情勢に踏まえた短期的な対策であるともいえます。

都営地下鉄・大江戸線で乗務員による社内クラスターが発生し、長期間にわたる減便運行を余儀なくされました。一部報道では、そのクラスター発生の原因が「洗面所の蛇口」にあるとされており、社員が共用するものが多くあるJR東日本の職場環境に照らし合わせても、同じ鉄道会社として他人事ではありません。

新型コロナウイルスの収束と終息がいまだ見通せない中、労働組合として経営側に「その都度の対策」ではなく、長期的な視点で対策を求めていく必要があります。

共用のコートや共用備品などに不安はありませんか？

「経費節減の声」によって「改善の声」を上げること
躊躇していませんか？

安心して業務ができますか？



労働組合として感染防止対策を点検し改善していこう！